

部屋点検を外注 効率化

子育て世代働き手ら受託

人手不足の時代 妙手 ⑥

鍵穴が塩害で固着していないか、壁や床にカビは生えていないか、水道やガスコンロは作動するか。不動産業の琉信ハウジング(那覇市)は、貸部屋の契約者が入居する前の点検を昨年外部の事業者へアウトソーシング(外注)している。1部屋当たり60〜90分。夏場はエアコンが

琉信ハウジング

使えず過酷な作業だ。県内で新型コロナウイルスの感染が落ち着くと、不動産業は県外からの移住や転勤で需要が増加傾向となった。琉信ハウジングは受け入れ態勢の拡充を試みたが、人手不足の中で新規の採用が難しい課題を抱えていた。賃貸管理部幹旋課長の大末の広氏は「不動産業は週末の出勤もあることから求人への応募も厳しい。今い



①入居前点検をアウトソーシングした琉信ハウジングの大末一広課長(左)とリアライズの池田礼子社長。1月12日、那覇市②リアライズの職員は入居前点検で水道などをチェックし、内容をスマートフォンで記録する。1月17日、那覇市

点検業務は、物件の設備管理会社が「人手不足の業界と働きたい女性のマッチング」を掲げて立ち上げたリアライズ(神奈川県)が引き受ける。2022年から沖縄に営業所を置き、30〜40代の子育て世代の5人が働いている。リアライズは点検作業や鍵の交換、清掃などの研修で人材を育成。高温多湿の沖縄では入居後にカビのクレームが入らないよう入居前の点検や清掃が重要となる。

琉信ハウジングにとって点検の外注は清掃をアプロに任せ、社員負担を減らし、客の満足度を高める「一石三鳥」につながった。リアライズの池田礼子社長は「1部屋当たり60〜90分の作業で、子どもが保育園や学校に行っている時間に、自分の都合に合わせて働ける」と語る。

全国的に人手不足が深刻化する中、こうした「隙間時間」に働きたい子育て世代や高齢者の活用が注目されている。3人の子どもを育てる池田社長は「働きたい女性が活躍すれば地域の経済も活性化するはず」と話し、隙間時間に働きたい人材の活用を呼びかける。

(政経部・銘対一哲) 木々土曜日に掲載します